

# 学報

2014年 2月 Vol.678



「環境マネジメントシステム (ISO14001) 審査登録証」  
授与式 (1月28日)

岐阜大学長期インターンシッププログラム (GULIP) 最終成果報告会を開催	1
留学生センターチューター企画 NEW YEARS PARTYを開催	2
第39回岐阜大学フォーラム<男女共同参画フォーラム> 「ミクロ世界の3体問題～私はこうして研究者になった～」を開催	3
岐阜市男女共同参画優良事業者として表彰される	4
岐阜県域農林業教育システム研究発表交流会を開催	5
全学でISO14001を認証取得	6
叙位・叙勲	7
学位授与	7
産学連携の実施状況	8
外国人研究者の受け入れ	8
諸会議	9
主要日誌	10
人事異動	《学内限定》11

## 岐阜大学長期インターンシッププログラム（GULIP）最終成果報告会を開催

12月17日（火）から26日（木）までの間、GULIP（岐阜大学長期インターンシッププログラム）最終報告会を開催した。

GULIPは、学部や学年の異なる学生達でチームを編成し、企業から出された課題を検討、解決策を提案するPBL型（問題解決型）長期インターンシッププログラムである。

民間企業の5社、岐阜県庁商工労働部及び本学キャリアセンターから提供された課題に対して約半年間にわたり合計7チームが同プログラムに取り組み、11月に行った中間発表で指摘を受けた後、各チームが調査の追加やさらなる検討を加えた企画・立案について、それぞれの企業の本社等での会場で多くの参加者のもとプレゼンテーションした。

岐阜県庁チームの最終報告は、12月26日（木）に岐阜県庁で関係者など17人を集めて行われた。このチームには、県商工労働部から岐阜県内の中小企業における「グローバル人材の育成」に関わる課題が与えられ、中間発表で受けた指摘をもとに、その後1ヶ月間で、新たにアンケートや調査等を実施、検討した結果を踏まえ、「海外進出を考えている中小企業に、国際業務経験を持つ定年退職者や、外国語に堪能だが出産等で退職した女性を再雇用して派遣する」という案を提案した。これを受けた県商工労働部からは、「大変おもしろい仕組み」と評価があった。

その他の企業チームも、中間発表では企業からの質問に苦労していたが、最終成果報告会では、「貴重な提案をいただいた」、「よく調べあげた」などと賞賛の言葉をいただいた。

また、最終報告会后にGULIP参加学生が集まり、異なるチーム毎のメンバーでそれぞれの体験や意見を交換し、参加した学生からは次のような意見があった。

・チーム同士のコンタクトを取り、一つのモノを作り上げる大切さ、必要さを身を持って体感できたことがGULIPで一番成長できたポイント。

・3か月間を通して、グループワークでのコミュニケーション能力を身につけることができたこと、課題解決の過程での企業訪問や企業・団体の方とのメールのやり取り等で社会人としての振る舞い方も身につけることができたと思う。

・“価値”とは「自分で作るもの、決めるもの」と考えていたが、GULIPを通して誰かの力を借りること、受け入れること、受け取ることが少しずつできるようになった。

・中間発表を経て、目標を設定する大切さに気づき、一回一回のディスカッションの目標を初めに掲げ、それに向かって意見を出し合う効果的な話し合いができるようになった。GULIPを通して「目標設定」の大切さを学んだ。



県庁チームの発表の様子



岐阜大学チームの発表の様子

## 留学生センターチューター企画 NEW YEARS PARTYを開催

1月15日（水）、留学生センター交流ラウンジにおいて、ラウンジチューターの企画による「新春パーティー」を開催した。

同ラウンジは、留学生の学習支援（主に日本語・日本文化学習）や留学生と日本人学生との交流の場として活用し、本学の国際交流推進を図ることを目的に設置されたもので、平日午後3時から5時までラウンジチューターが待機し、訪れた留学生の学習支援に当たっている。

当日は、留学生、日本人学生が多数参加し大盛況となった。イベントでは、チューター及び有志日本人学生のリードにより、お正月に行われている伝統的な遊びであるカルタ取り、福笑い、百人一首（坊主めくり）、書初めを行った。

最初、留学生は初めての体験で少し戸惑った様子だったが、ゲームに参加していくうちに戸惑いもなくなり、にぎやかな笑い声が聞こえる和やかなひと時となった。百人一首やカルタ取りでは、日本人学生に負けないほど、日本語に精通した留学生もおり、留学生と日本人学生とのよい交流の場となった。また、書初めに挑戦する留学生が多く、チューターのアドバイスのもとに、スムーズな筆使いで、思い思いの漢字を書いていた。

このイベントは、留学生にとっては日本文化の一端に触れる機会となり、日本人学生にとっては留学生と出会う機会となった。これを契機に、両者の交流がさらに広がることを期待したい。



イベントの参加者ら



百人一首に挑戦



日本人学生チューター



書初め初体験

### 第39回岐阜大学フォーラム<男女共同参画フォーラム> 「ミクロ世界の3体問題～私はこうして研究者になった～」を開催

1月16日（木）、第39回岐阜大学フォーラムを開催した。

本学は、大学活性化のために、優れた学問を発展させてきた一流の研究者による講演会を年数回開催している。第39回目となる今回は、本学男女共同参画推進室の企画により、独立行政法人理化学研究所・准主任研究員 肥山詠美子氏が、「ミクロ世界の3体問題～私はこうして研究者になった～」と題して講演を行い、教員・学生等80余名が参加した。

本学男女共同参画推進室は、女性研究者の裾野拡大の取組を進めている。理論物理学を専門とする肥山氏は、自然科学系の優れた女性研究者に贈られる猿橋賞を今年度受賞しており、研究者をめざす理系の女子学生にとって魅力的なロールモデルでもある。

講演では、肥山氏が難解な3体問題を高精度に解く計算法を開発し、物理学の様々な研究課題に応用して成果をあげてきたことや、ハイパー核物理学の最新の話題などを紹介したほか、物理学者になるまでの道のりや研究者の仕事の魅力などを生き生きと講演し、学生たちは、目を輝かせて聴き入っていた。

質疑応答では、学生から、独創的な発想のために大切なことは何か、いい論文を書くためのポイントは、など質問が積極的にあり、世界中の研究者と議論し、国際的に活躍する肥山氏のエネルギッシュな姿が、学生たちに大いに刺激となったようだ。



開会の挨拶をする森秀樹学長



講演をする肥山詠美子氏



フォーラムの様子

## 岐阜市男女共同参画優良事業者として表彰される

本学は、岐阜市から、平成25年度岐阜市男女共同参画優良事業者として表彰された。

岐阜市は、平成15年から毎年、男女共同参画推進に向けての取組を積極的に行い、その推進に顕著な功績があったと認める事業者を表彰している。

今回の受賞は、本学が、平成22年度に男女共同参画推進室を設置して以降、男女共同参画推進の取組を進め、出産・育児等により研究時間の確保が困難な女性研究者の実験や講義の補助を行う研究補助員の配置を行うなどして女性研究者支援に力を入れてきたこと、女性研究者の裾野拡大を目的として、女子大学院生が県内小中高校に出前講義に赴く「サイエンス夢追い人育成プロジェクト」を実施してきたこと、また、学内に保育園を設置し子育てとの両立支援に取り組んでいること、職員・学生のための相談窓口を設置し、ハラスメント防止にも取り組んでいることが評価されたものである。

平成26年1月25日（土）の表彰式では、細江岐阜市長から林正子副学長（男女共同参画推進・環境対策担当）に、賞状及びトロフィーが授与され、林副学長が「今後も大学と自治体が連携しながら、ともに男女共同参画を推進していきたい」と謝辞を述べた。



岐阜市長から林副学長へ表彰状授与

## 岐阜県域農林業教育システム研究発表交流会を開催

本学応用生物科学部では、1月25日（土）に、平成22年度に本学部が主管となって発足した「岐阜県域農林業教育システム連携協力会議」が、「岐阜県域農林業教育システム研究発表交流会」を開催し、同システム連携協力校の教員・生徒のほか本学部の教員・学生の約150名が参加した。

同研究発表交流会の開催にあたり、応用生物科学部 福井博一学部長から「教育・研究の交流の場とし情報交換・収集を行い、今後の勉学・研究に生かして欲しい」との挨拶に続き、各校の生徒達は、分野別に振り分けられた4つのグループに分かれてそれぞれが研究発表を行い、1研究発表毎に生徒間での活発な意見交換が行われた。また、応用生物科学部の教員による助言、研究指導では、参加した生徒達は真剣な表情で耳を傾けていた。

参加した各校の先生方からは、「初めての試みであったが大変有意義で、生徒にとっては大学で研究発表することができ、大学教員からの助言・研究指導が受けられる大変貴重な体験の場であり、今後の生徒の勉学、研究への意欲向上に繋がる。次年度以降も是非継続し開催してほしい」との強い声が聞かれた。

今後、同連携システム協力者会議での教育・研究連携への新たな取り組みとし、同研究発表交流会の内容充実、参加校の拡大を図り、次年度以降も継続して開催していく。

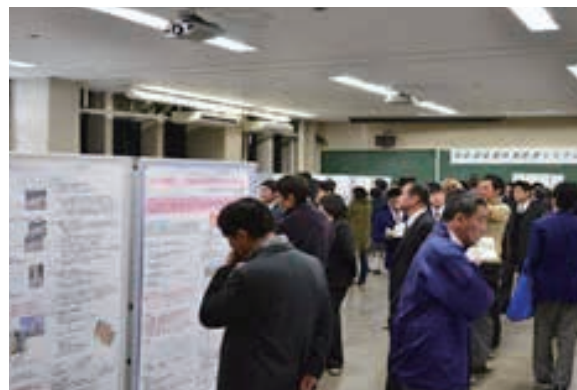
### 【研究発表件数 43件】

岐阜県立農業大学校	4件
岐阜県立国際園芸アカデミー	2件
岐阜県立森林文化アカデミー	2件
岐阜県内の農業関係高等学校	35件

(岐阜農林高等学校14件、加茂農林高等学校3件、恵那農業高等学校6件、飛騨高山高等学校3件、郡上高等学校6件、大垣養老高等学校3件)

### 【研究テーマ】

「紅色細菌を利用した水質浄化」、「遺伝子組換え作物～意識が変わる瞬間～」、「里山からのエゴノキ材の持続的供給について～和傘作りをささえるために～」、「いちご高設栽培における効率的な加温方法の比較研究」など



交流会の様子

## 全学で ISO14001 を認証取得

本学は、環境マネジメントシステムの国際規格である ISO14001 を、平成15年に地域科学部で認証取得してから、順次、その認証範囲を拡大してきた。昨年度までに大学本部、図書館、教育学部、附属小・中学校、地域科学部、医学系研究科・医学部、応用生物科学部が認証を取得した。

今年度は10月に環境マネジメントシステムの維持審査・拡大審査を受け、新たに工学部が認証を取得した。これにより、附属病院を除く全学で認証を取得することができ、1月28日、その審査登録証の授与式を行った。

当日は、高圧ガス保安協会の加藤 ISO 審査センター担当理事、青山中部支部事務局長、日比野審査員、本学の林副学長、西村環境対策室長、速水工学部副学部長、長谷川名誉教授、池戸工学部事務長、杉浦施設環境部長、河地環境企画課長が出席。加藤 ISO 審査センター担当理事から林副学長に「環境マネジメントシステム審査登録証」が手渡された。

審査登録証を受け取った林副学長は、「平成15年に地域科学部で認証取得してから、順次その認証範囲を拡大し、今回の審査で、附属病院を除く全学で認証を取得することができた。これまでも、環境に関する教育や研究を積極的に展開したり、環境フォーラムを開催したりするなど、さまざまな環境に配慮した活動を行ってきましたが、今後も、地域社会への大学ならではの貢献に努めたい」と語った。

また、加藤 ISO 審査センター担当理事は、「目標であった全学での認証取得を達成されたということは大変すばらしい」と評価し、「今後も、引き続き環境に配慮した大学づくりを行っていただき、持続可能な社会づくりに貢献していただきたい」と話された。

本学は、平成21年11月に環境ユニバーシティを宣言しており、環境に配慮した大学運営を行っている。今回の全学での ISO14001 の認証取得は、今後の環境対策の取り組みに拍車をかける契機となった。



加藤 ISO 審査センター担当理事（右）より「審査登録証」授与される林副学長（左）



今年度新たに認証を取得した工学部の副環境責任者とともに記念撮影  
左から速水工学部副学部長、林副学長、加藤 ISO 審査センター担当理事



集合写真

## 叙位・叙勲

元本学職員に対し、次のとおり叙位・叙勲がありました。

故 名誉教授（元医学部教授） 玉舎 輝彦 氏  
正四位 瑞宝中綬章（平成25年12月22日）

## 学位授与

学位の種類	学位記番号	氏名	学位授与年月日	学位論文名
博士（医学）	医博甲第935号	山 本 崇 裕	H26. 1. 15	Functional assessment of the mutational effects of human IRAK4 and MyD88 genes（ヒト IRAK4および MyD88遺伝子における変異効果の機能解析）
博士（医学）	医博甲第936号	陰 山 泰 成	H26. 1. 15	Rac regulates collagen-induced HSP27 phosphorylation via p44/p42 MAP kinase in human platelets（Rac はヒト血小板中でコラーゲンが誘導した p44/p42 MAP キナーゼを介して HSP27のリン酸化を規定している）
博士（医学）	医博乙第1475号	土 屋 朋 大	H26. 1. 15	Comparison of pharmacokinetics and pathology for low-dose tacrolimus once-daily and twice-daily in living kidney transplantation: prospective trial in once-daily versus twice-daily tacrolimus.（生体腎移植における低用量タクロリムス 1日1回投与製剤と1日2回投与製剤使用の薬物動態および病理学的比較）



産学連携の実施状況

○共同研究 (平成26年1月契約分)

部 局 名	研究代表者	企 業 等 名
工 学 部	國 枝 稔	中日本高速道路 (株)
〃	加 藤 邦 人	岐阜県情報技術研究所, 岐阜車体工業 (株)
応用生物科学部	矢 部 富 雄	(株) 真誠
流域圏科学研究センター	沢 田 和 秀	ヒロセ (株)
〃	〃	(株) ファルコン

○受託研究 (平成26年1月契約分)

部 局 名	研究代表者	企 業 等 名
医学部附属病院	榎 本 由 貴 子	独立行政法人国立循環器病研究センター
〃	諏 訪 哲 也	公益財団法人日本糖尿病協会
〃	吉 田 和 弘	特定非営利活動法人疫学臨床試験研究支援機構
〃	〃	特定非営利活動法人日本臨床研究支援ユニット
工 学 部	田 村 哲 嗣	総務省
〃	王 志 剛	新構造材料技術研究組合
〃	吉 田 佳 典	〃
〃	三 宅 卓 志	(独) 科学技術振興機構
応用生物科学部	上 野 義 仁	(株) ジーンケア研究所
流域圏科学研究センター	久 世 益 充	土岐市

外国人研究者の受け入れ

受入部局	氏 名 (国 名)	所属・職名	期 間	研 究 題 目
応 用 生 物 科 学 部	Hammad Abd Elwanees Ketta (エジプト)	カフルエルシェイク大学 准教授	26. 1. 25 ~ 26. 7. 24	Soil borne viruses of cereal crops and their vector Polymyxa graminis

諸会議

<p>◇ 第425回役員会 1月9日(木) 議 題 1. 寄附講座の設置について</p> <p>◇ 第8回部局長・部長会 1月9日(木) 1. 教育の内部質保証システムの構築に向けて 2. 電子ジャーナル購入経費の負担方法及び見直しについて(案)</p> <p>◇ 第2回授業編成専門委員会 1月14日(火) (承認事項のみ)</p> <p>◇ 第426回役員会 1月16日(木) 議 題 1. 教育職員の人事(医学系研究科:教授2名)について 2. 特任教員雇用事前協議について</p> <p>◇ 第121回教育研究評議会 1月16日(木) 議 題 1. 学生の懲戒について</p> <p>◇ 第2回教学委員会 1月21日(火) 1. 大学院学則の一部改正について 2. 入学前の既修得単位の認定に関する取扱細則</p>	<p>の一部改正について 3. 平成26年度岐阜大学授業料及び入学科免除等に関する選考基準実施要領の一部改正について 4. 入学試験専門委員会及び授業編成専門委員会に係る審議・承認事項の取扱いについて</p> <p>◇ 第427回役員会 1月23日(木) 議 題 1. 寄附講座の設置について 2. 特任教員雇用事前協議について</p> <p>◇ 第9回国際戦略本部会議 1月28日(火) 議 題 1. 岐阜大学の action-plan について 2. 平成26年度計画(素案)について 3. 大学間学術交流協定に基づく交換留学生(短期派遣)の語学基準に関する申合せの改正について 4. 平成26年度4月期学術交流協定に基づく交換留学生(短期受入)の受入について 5. 平成26年度大学推薦による国費外国人留学生(研究留学生)の推薦について</p> <p>◇ 第428回役員会 1月30日(木) 議 題 1. 教育職員の人事(地域科学部:准教授2名)について</p>
---	--

主要日誌

月 日	行 事 名
1 / 6	互礼会
8	看護学科・看護学専攻教授会議（医） 教授会（メディア）
9	第425回役員会 第8回部局長・部長会
10	代議員会（連農）
14	第2回授業編成専門委員会
15	医学研究科・医学科教授会議（医） 教授会・代議員会（工） 教授会・研究科委員会（応） 留学生センターチューター企画 NEW YEARS PARTY
16	第426回役員会 第121回教育研究評議会 第39回岐阜大学フォーラム＜男女共同参画フォーラム＞
18	大学入試センター試験（～19日まで）
21	第2回教学委員会 代議委員会（連獣）
22	教授会・研究科委員会（教・地） 教授会（生命）
23	第427回役員会
25	推薦入学Ⅱ特別入試（教・地・工） 岐阜県域農林業教育システム研究発表交流会
27	工学研究科（博士前期課程）入学試験（第2次）（～28日まで）
28	第9回国際戦略本部会議 工学研究科（博士後期課程）入学試験（第2次） 「環境マネジメントシステム（ISO14001）審査登録証」授与式
29	推薦入学Ⅱ特別入試（医）
30	第428回役員会 推薦入学Ⅱ特別入試（応）（～31日まで） 連合創薬医療情報研究科入学試験（第2次）
31	医学系研究科医科学専攻（博士課程）入学試験（第2次）（～2月4日まで） 医学系研究科再生医科学専攻（博士後期課程）入学試験（第2次）
2 / 1	地域科学研究科入学試験（第2次）